



きねん樹 ～創立90周年記念特集号～



ご挨拶

当院は昨年、創立90周年を迎え、本年は100周年に向かい新たな第1歩を踏み出す年になります。

創立者、福井屯が現在の長崎市土井首町、当時は西彼杵郡土井首村という半農半漁の寒村で、内科小児科医院を開業したのは大正11年であります。昭和30年12月には、戦後の結核病床の要請とバス運行の利便性に対応し、長崎市草住町に移転、結核病床50床、一般病床3床の「医療法人浩仁会福井病院」として、病院設立が行われました。

昭和40年代になると長崎半島西部の救急医療を中心とした医療需要が高まり、これまでの病院は手狭となり、昭和52年3月、深堀地区に207床の急性期病院として新築移転しました。

昭和50年代の高度成長期に伴い医療ニーズはさらに高まり、昭和61年増築、一般病床327床に増床、同時に名称を「医療法人長崎記念病院」と改称し、平成15年には回復期リハビリテーション病棟を新改築、一般病床164床、回復期リハビリテーション病床48床、医療保険適応療養病床44床、介護医療施設48床、の四機能を持つ304床のケアミックス病院として生まれ変わりました。

平成21年には、これまでの実績が認められ長崎県初の社会医療法人に認定され、市南西部における医療・介護・福祉の基幹的病院として評価され、今日を迎えた訳であります。

当院を支援していただいた地域の皆様、ご指導・ご助力を戴いた長崎大学、行政の皆様、また多くの苦難を乗り越えて医療を継承していただいた先輩職員諸氏等に深甚なる感謝を申し上げます。同時に若い世代の皆様には、100周年、150周年と長崎記念病院の地域に対する思いを継承して頂きますよう期待して、これまでの病院紹介とさせていただきます。

理事長 福井 洋

～創立90年の沿革を写真で紹介します～

～大正11年、創立者、福井屯先生が内科小児科医院を開業～



(内科小児科医院)



(土井首綱代)



(往診船・漣号)



(綱代漁港)

大正11年に創立者、福井屯が現在の長崎市土井首町、当時は西彼杵郡土井首村綱代という半農半漁の寒村で、内科小児科医院を開業。

創立以来、それまでの歩みは決して平穏ではなく、山あり谷ありで昭和18年に始まりました太平洋戦争では、院長の出征、空襲による至近距離での爆弾破裂、米空軍機による機銃掃射、そして原子爆弾被爆と続き、病院直前まで追い込まれた時もあります。地域医療の開始は寒村の内科的医療と共に、終戦前のモーターボートによる臨海診療は、小浜、島原、天草まで及びました。戦後の往診はオートバイ・車等が主になりました。

～昭和30年、市内草住町に移転。「医療法人浩仁会福井病院」として病院設立～



(福井病院の外観)



(国道からの玄関付近)



(鉄筋骨構建の建物)

昭和30年12月、戦後の結核病床の要請とバス運行の利便性に対応し、国道499号線沿いの長崎市草住町に移転。結核病床50床、一般病床3床の病院を設立し、「医療法人浩仁会福井病院」という名称で法人化しています。なお、昭和40年代になると長崎半島西部の救急医療を中心とした医療需要が高まり、市内深堀町に新築移転することになりました。

～昭和52年、市内深堀町に207床の急性期病院として新築移転～



(新築病院の起工式)



(新築病院の外観)



(昭和61年増改築竣工式)



(急性期病院の外観)

昭和52年3月、深堀町に207床の急性期病院として新築移転。さらに医療ニーズの高まりから昭和61年増築、一般病床327床に増床、同時に名称を「医療法人長崎記念病院」と改称。平成15年には回復期リハビリテーション病棟を新築、一般病床164床、回復期リハビリテーション病床48床、医療保険適応療養病床44床、介護医療施設48床、の四機能を持つ304床のケアミックス病院として生まれ変わり、平成21年には長崎県初の社会医療法人に認定されました。市南西部における医療・介護・福祉の基幹的病院として評価され、今日を迎えた訳であります。



(法人化20周年記念式典)



(回復期リハ病棟の起工式)



(現在の病院)



(新入社職員の集合写真)

～いろいろなイベントの想いで写真～



(昭和30年後半強豪野球
チームメンバー)



(市民早朝ソフトボール
9回・10回大会優勝)



(昼のひと時)



(昭和39年職員集合写真)



(院内運動会・綱引き競技)



(院内旅行：大分県朝生金山)



(バレーボール大会後のポーズ)



(平成22年ナイターソフト
ボール大会準優勝)



(昭和41年当時忘年会
パフォーマンス)



(院内研修会開催)



(三菱グラウンド：野球練習後)

第100回 さわやかコンサート



○この日の
さわやかコンサート
は、長崎大学教
員会の教授ら
が加わり、ピア
ノ・クラリネット
による美しい
音がロビーを
響かした。出
席した大人数の
は、ロビーに
溢れに溢れた。

ギタリストの真見。山口修さん。○山口修さんの家族が、長崎市、同病院で大手街を受けた。長崎市、同病院で大手街を受けた。長崎市、同病院で大手街を受けた。長崎市、同病院で大手街を受けた。



第200回 さわやかコンサート

200回目 さわやかに

長崎記念病院ロビーコンサート



昭和53年、病でふさがちな患者さんたちを音楽で元気づけようと、長崎記念病院（当時は福井病院）の福井洋（現理事長）と国際的ギタリスト、山口修さんによって「さわやかコンサート」が開催されました。当時はまだ県内はもちろん全国でも珍しい取り組みだったようです。待合室ロビーを会場に、30年以上の歳月を重ねてきた手作りの音楽会は、優しく温かな音色と歌声は、100回、200回目を迎え、患者さんへの音のプレゼントは今でも快く待合室に響いています。

～平成24年11月17日（土）・創立90周年記念式典開催！～



(受付風景)



(福井 洋理事長挨拶)



(井原 哲様御挨拶)



(鏡割り)



(今村病院長 乾杯)



(歓談中の一コマ)



(永年勤続表彰)



最後は皆で記念写真！

～編集後記「ぎねん樹 特集号「創立90周年」の発刊にあたって～

創立90周年記念誌の発刊を目標にプロジェクトのメンバーとして資料収集に取り掛かっていましたが、今回、病院の広報誌「ぎねん樹」の90周年記念特集号を発刊する機会を与えて頂き、プロジェクトメンバー一同感謝申し上げます。
資料の収集においては、まず膨大な資料の数に驚いております。その仕分け作業の中でも学会や投稿など実績が多数あり、職員の皆さまの熱心さが伺われました。それに写真の多いこと、アナログ的アルバムからデジタル化する作業は大変な時間を要しました。どれも貴重なものばかりで重圧さえ感じています。事業業績集など編集作業がまた難題を窺っていますが、プロジェクトメンバー一致協力して完成を目指していきたいと思っています。

編集委員長



藤山 徹
(S.42年入社)

編集委員



松尾 勝子
(S.37年入社)



平山 修
(S.40年入社)



中村源之助
(S.42年入社)